

に Al, Cu, ラワン, ガラス, アクリル, 沢紙, 活性炭沢紙, 布の試料を入院期間中設置した。そして, ガス状 ^{131}I がどの程度沈着するか測定を行った。活性炭沢紙 1ヶに 0.24 nCi 沈着したものが一番多く、他の試料はいずれも 0.1 nCi 前後であった。

4. 甲状腺腫の ^{67}Ga -citrate スキャンとその臨床評価

○多田 明 立野 育郎

(国立金沢病院・放)

杉原 政美 窪田 昭男

(金大・核医学)

甲状腺癌 23 例を含む結節性甲状腺腫 30 例について、良性悪性の鑑別診断を目的として ^{67}Ga スキャンを行った。 ^{67}Ga -citrate 2 mCi 静注後 48 時間で 1000 hole collimator 装着 γ -camera を用い 190 kev \pm 35% でシンチフォトを作製した。

<結果> 30 例中 10 例に陽性像を得た。その内訳は、甲状腺癌 23 例中 8 例、(未分化癌 5/5, 乳頭腺癌 2/14, 沢胞腺癌 1/4) 慢性甲状腺炎 1/3, 悪急性甲状腺炎 1/1 であった。

悪性と良性の陽性率は、8/23 と 2/7 で同じ程度であった。甲状腺癌の中では未分化癌全例に陽性像を得、集積程度も著明であった。

未分化癌で Linac 照射 7000 rad 後に ^{67}Ga スキャンが陰性化した症例を示す。

^{67}Ga スキャンは、甲状腺腫の良性悪性の鑑別診断には応用価値は低いと言えよう。しかし、未分化癌の早期発見と、その治療効果の判定には有意義であろう。

5. 甲状腺 RI-Angiography の検討

○多田 明 立野 育郎

(国立金沢病院・放)

針生検、手術所見にて確診が得られている 26 名の結節性甲状腺腫を有する患者に対して $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -

O_4^- による甲状腺 RI-Angiography を行った。全例通常のスキャンで cold nodule であった。

<方法> ピンホールコリメーターを用い、 $^{99\text{m}}\text{Tc}-\text{O}_4^-$ 10-15 mCi を結節のある反対側の肘静脈よりボーラス注入し、5 秒後よりポラロイドカメラにて、5 秒間ずつ 35 秒まで撮像した。さらに 5 分後と 20 分後にもスキャンした。

<結果> 正常甲状腺部に比べて明らかな hypervascularity を示したのは 15 例であり、甲状腺癌 18 例中 9 例、甲状腺腫 6 例中 5 例、慢性甲状腺炎 2 例中 1 例であった。

反対に hypovascularity を示したのは 3 例で、1 例は Linac 照射後の未分化癌、1 例は cyst であった。

甲状腺 RI-Angiography は、結節性甲腺腫の良性、悪性の鑑別には価値がない。甲状腺癌よりも腺腫に高率に hypervascularity を認めた。

6. デキストラン炭末法における上清測定と沈澱測定との検討

○稻垣 忠一 大沢 保

岡本 一也 藤井 忠一

尾藤美穂子 矢野 正幸

(浜松医療センター)

ガストリン及び、T-3 RIA 市販キット（デキストラン炭末法）の B.F. 分離で、上清の一定量 (1 ml) を用いて計測する方法と、沈澱物を計測する方法との比較検討を行った。

結果：上清法と沈澱法との間に

ガストリンは相関係数 $r=0.979$ 、T-3 RIA では相関係数 $r=0.967$ 、となり、両キット共、信頼限界 95% のも検定で統計的有意差を認めなかった。しかし 30 例中 1 例が相対的に大きなバラツキを示した。

考案：沈澱の完全な上清を用いれば、上清を除く時の沈澱の流出による誤差が無くなり、検査の精確度につながる。今回の誤差の原因は、試験管ラック一括遠心器使用により、一部の試験管で管